

船舶事故等調査報告書

平成22年1月28日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009函第55号	
事故等種類	衝突（防波堤）	
発生日時	平成21年7月31日 02時32分ごろ	
発生場所	北海道苫小牧港東外防波堤灯台から真方位354° 740m付近 （概位 北緯42° 37.3′ 東経141° 37.2′）	
事故等調査の経過	平成21年8月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 漁船 第五十八<sup>たいせい</sup>大勢丸、4.9トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 HK3-94635（漁船登録番号）、個人所有</p> <p>乗組員等に関する情報 船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 左舷船首部（喫水線より上方）が圧壊</p>	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか4人が乗り組み、苫小牧港第2区の係留地を出航し、港口に向け南西進中、平成21年7月31日02時32分ごろ、苫小牧港第2区西防波堤（以下「西防波堤」という。）に、左舷船首部が約50°の角度、約10ノット（kn）の速力で衝突した。</p> <p>船長は、負傷者がいないこと、損傷箇所が喫水線より上で浸水及び漏油等がないことを確認した後、航行に支障がないものと判断してそのまま漁場へ向かい、漁を終えて苫小牧港に帰航後、所属漁業協同組合を介して、海上保安部に事故発生を通報した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向、風力 ほとんどなし、視界 良好</p> <p>海象：波高、波向 ほとんどなし、海象平穏</p>	
その他の事項	<p>本船は、通常僚船とともに02時00分ごろに出航していたが船長が寝過ごしたため出航が遅れ、離岸したのは02時28分ごろであった。</p> <p>船長は、気が焦った状態で、航海灯を点灯せず、航海計器の起動等も行わずに急いで離岸し、目視のみにより港口に向けて右転し、遠隔操縦リモコンの操舵ダイヤルを中央に戻して自動操舵とし、その後、航海灯の点灯及び航海計器の起動等の作業を行った。</p> <p>船長は、衝突直前に防波堤の影に気付き、急いで左舵一杯をとり、機関を全速力後進としたが、約10knの速力になったとき、西防波堤に衝突した。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>船長は、苫小牧港を出航するため、針路を定めた際、出航が遅れたことによって気が焦り、船首方向を目視で確認したものの、航海計器を使用して確認しなかったため、西防波堤に向首したことに気がかずに自動操舵とした可能性があると考えられる。</p>

		船長は、針路を定めた後に航海灯の点灯などの作業にあたり、見張りを行わなかったため、衝突直前まで西防波堤に向首していることに気付かなかった可能性があると考えられる。
原因		本事故は、夜間、苫小牧港において、本船が港口へ向け南西進中、見張りを行わなかったため、西防波堤に向首していることに気付かずに航行し、西防波堤に衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。